

●行政視察（東京都） 沖山 昇
7月1日（火）～7月3日（木）

○東京都北医療センター

東京北医療センターへは、赤羽駅より病院玄関前まで100円で乗車できるコミュニティバスにて行くのが、妊婦の負担が少ない行程である。

ちなみに徒歩では、北赤羽橋駅5分、赤羽橋駅15分である（病院HPより）。

東京北医療センターに隣接する職員用住宅を視察させてもらった。その職員用住宅の一部（6部屋）は、島しょ地域より分娩目的で東京北医療センターに来た島民への貸し出し用として準備している部屋である。広さは、5畳ほどの広さで、ベッド（シングル）一式、ユニットバスの他、エアコンやテレビ、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、炊飯器、電気ケトルなどの家電、IHヒーターや手鍋、フライパンなどの調理器具や食器類もあり、必要な生活用具一式は揃っている。また、エレベーターにて屋上へ上がると洗濯物を干す場所も設けてある。すでに伊豆諸島の他の島からの利用があり、料金は1日につき2,000円となっている。

借用できるのは、34週から出産後1か月健診までで、基本1名の利用であるが寝具を持ち込めば、夫も1泊程度は泊まることが出来る。

日常の買い物等は、院内にコンビニエンスストアがあり購入できる。

院内も案内して頂いた。本館4階に分娩室2室、陣痛室（分娩可）4室、新生児室がある。分娩入院時の「手ぶらで入院セット」（タオル類、シャンプー、コンディショナー、ボディーソープ、ヘアブラシ、ヘアゴム、スリッパ）やLINEによる出産準備サポートも行っている。

東京北医療センターの病院運営の基本方針に、「へき地・離島等への医療支援を行う」「24時間体制による小児診療や、周産期診療に重点を置いた医療を提供」と上げており、島しょ地域からの分娩の受け入れに積極的であると感じた。

○自治体・公共week

自治体・公共Week 2025」は、総務省、全国市長会、全国町村会が後援、（一財）地域活性化センターが特別後援により開催されている。

セミナー会場では、デジタル大臣 平 将明氏が講師として「日本のDX推進政策（デジタル・AIが切り拓く行政の未来）」と題した講演があり聴講した。

会場には、【自治体DX展】【地域防災】【地域福祉】【地方創生】等のコーナーがあり、それぞれ専門事業者等の出展があった。

主に【地域防災】と【地域福祉】のコーナーを訪れた。

【地域防災】

- ・防災士研修センター

地域の防災力向上のための防災士研修講座の開催に繋げる。

防災士の養成により、助けられる人から助ける人を増やす。

- ・（一社）AR防災

防災訓練にて、AR及びVRを使った「AR火災体験」「VR地震体験」をリアルに体験することで、防災に関心を持つきっかけとする。

- ・（社）防災行政無線研究所

防災行政無線がデジタル化になり、個別受信機で受信しにくい現象が出てきている。受信困難箇所に関するアドバイスを受け解決に繋げる。

- ・その他数社

災害対策電力ユニット、防災用品ギフト、消防団用クラウドサービスなど

【地域福祉】

- ・(株)Kids Public

すでに八丈町においても導入している「産婦人科・小児科オンライン」。

全国39都道府県230自治体で導入。

- ・公文教育研究会

認知症の進行抑止・改善のための「学習療法」、認知症予防のための「脳の健康教室」を全国で展開。自治体や高齢者クラブなどが認知症予防啓発セミナーを企画する場合、講師派遣など無料で行っている。利島や青ヶ島で実績あり。

- ・(株)ココママ

妊娠・出産・育児に関する悩み等をLINEにて24時間365日相談できる。専門家のオンライン講座、子育てに役立つ動画を提供し、「困った!」を「大丈夫に!」と解決を目指す。

【自治体DX】

- ・NTT東日本グループ

地域DX・インフラ、庁内DX、防災についてNTT東日本グループで取り組んでいる。

【自治体向けサービス】

- ・(株)ヴィアックス

30自治体99図書館の運営を受託している。

他にも自治体DXや自治体向けサービス、地方創生に関するたくさんの展示を見て回ったが、「八丈町に合った防災・福祉」を考える上で参考となる提案が多くあった。八丈町でも積極的な活用を進めると良いと感じた。